

小えび類 (アカエビ、サルエビ、サケエビ、クダヒゲエビ等)



小えび類を構成する主なえび類。1：アカエビ、2：ミゾトラエビ、3：ツノソリアカエビ、4：キシエビ、5：ミナミシロエビ、6：シロエビ、7：シナアカエビ、8：シラガサルエビ、9：オキサエビ、10：ツルギサケエビ、11：コウダカクダヒゲエビ、12：ヒゲナガクダヒゲエビ

「小えび類」とは、底びき網で漁獲される小型えび類をまとめたもので、いろいろな種類が含まれています。そのほとんどがクルマエビ科とクダヒゲエビ科で、これらはイセエビなどのお腹に卵を抱くことはなく、受精卵を直接海中に放出します。通常、小えび類はから揚げ、かき揚げの材料として用いられる他、活や冷凍で釣餌として

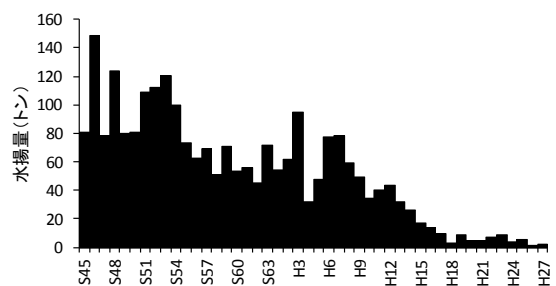


図1 高知市沖小型底びき網による小えび類漁獲量の推移 (昭和45～平成27年).

も利用されています。小えび類は高知市沖の小型底びき網漁獲量の20～40%（40年間の平均は19.8%、最近5年は3～11%）を占める大切な資源ですが、減少傾向にあります（図1）。

### 生物特性

高知市沖の小型底びき網で漁獲される小えび類については、独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所高知庁舎が詳しく調べています。その結果によると、こえび類の分布は水深で大きく分かれていて、水深10～30mはキシエビ、ツノソリアカエビ、シラガサルエビが、水深30～50mはアカエビが、水深40～70mはシナアカエビが優占します。しかし、小えび資源は大きく変動していて、近年、非常に多かったアカエビは姿を消し、資源量も減少していること（後述）が明らかにされています（表1、図2）。

表1 各小型底びき網漁場で平成23年に漁獲されたこえび類の種組成.

場所 属・種名/調査日	高知市沖 (御豊瀬)		須崎市沖 (須崎)			黒潮町沖 (佐賀)	
	5/20	8/12	5/16	7/1	8/19	5/18	6/30
アカエビ属							
アカエビ	1		15	26	33		
ミマセアカエビ	1	1	21	9	8		
ミノトラエビ	62		3	7			
ツノソリアカエビ	332	180					
キシエビ	200						
モギエビ	5						
トラエビ					7		
シナアカエビ			75	166	1	178	152
ミナミノエビ						5	13
サルエビ属							
オキサルエビ			172	86	2		
ナンセイサルエビ	3		1	1			
シラガサルエビ	12	107			7		
サケエビ属							
トゲサケエビ						11	91
ツルギサケエビ						115	54
クダヒゲエビ属							
ヒゲナガクダヒゲエビ			11	27	3	233	135
コウダカクダヒゲエビ			27	13			
ヨシエビ属							
ヨシエビ					1		
計	616	288	325	336	61	542	445

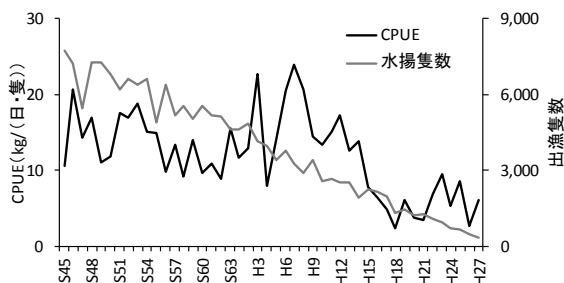


図2 高知市沖小型底びき網の漁獲努力量とこえび類漁獲効率の推移（昭和45年～平成27年）.

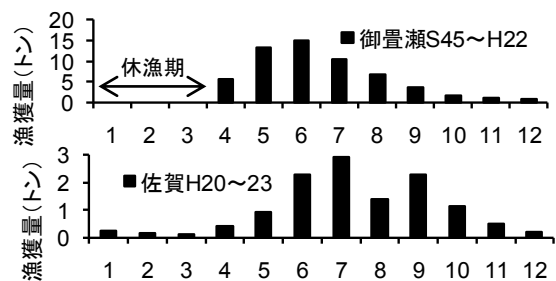


図3 高知市沖（上）及び黒潮町沖（佐賀、下）の小型底びき網によるこえび類の月別漁獲量.

### 資源動向

資源変動は種ごとに違うことから、資源動向は種ごとに分けて考える必要がありますが、小えび類の種別の情報は少ないため、小えび類全体をまとめて検討しました。長期的にデータが得られている高知市沖の漁獲効率は減少傾向にありますが、平成18年（2006年）以降は安定しています（図2）。

高知県水産試験場では高知市沖の漁場で資源調査を毎年実施しています。この調査は過去に中央水産研究所が実施していたもので、平成22年から高知県水産試験場が行っています。高知県沖の小型底びき網は漁期が4～12月となっており、漁期が始ま

る直前の3月末に小えび類の分布状況を調べます。調査で採集された小えび類の密度は漁獲量が多かった平成8年以前と比較すると大きく減少していて、小えび類の資源状態が悪いことがうかがわれます（図4）。

これらから、高知市沖小えび類の資源水準は「低位」、動向は「横ばい」と判断されます。

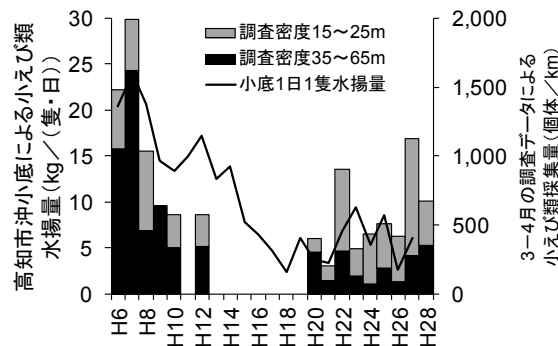


図4 高知市沖漁場の小えび類密度の調査結果と小型底びき網による漁獲効率の関係（平成6～28年）

#### 県内の漁獲

小型底びき網漁場3地区で漁獲されたこえび類を調査した結果、種組成は場所ごとに異なっていました（表1）。これは、漁場水深が高知市沖では20～70m、須崎市沖では50～70m、黒潮町沖では70～100mと異なるためです。月別の漁獲量は秋～春に少なくなりますが（図3）、これは産卵や寿命を含むえび類の生態と休漁期（高知市沖：1～3月、須崎市沖：1～5月、黒潮町沖：8～9月の一部）が関係しています。